

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078900216
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホームまほろば
所在地	福岡県柳川市三橋町正行351
自己評価作成日	令和4年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	令和4年2月17日	評価結果確定日	令和4年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれた静かな場所にあり、周辺には公園や散歩するのに良い小道があります。地域住民の皆様からはいつも気にかけて頂き、過ごしやすい環境にあります。地域の行事などにも積極的に参加させていただき、一住民として認めていただけていると思います。
事業所もワンユニットの小さな家という感じで、家庭に可能な限り近づけた環境です。利用者の皆様には、家庭の延長としてくつろいで、かつ楽しく過ごして頂けており、職員と入所者様もほぼ家族のように毎日を過ごし、信頼関係も築けているように感じております。
現在はコロナ渦で家族の面会も減っておりますが、手紙や電話、ネットでの交流を深めています。また、医師や関係機関との連携は普段と変わらず深めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は田畑、住宅に囲まれ、自然を楽しみながらのんびりと散歩もできる環境にある。地域との関わりが深い点が大きな特徴であり、日常的な交流はもちろん、事業所で火災などの災害訓練を行う際には近隣住民も一緒に参加している。地域の避難活動計画の中に、事業所のことが組み込まれており、地域住民の協力を受けながら避難ができる体制が整っている。管理者と職員は利用者本位の支援となっているかを常に振り返り、利用者の人権を尊重した対応を実践している。職員同士の意見交換も活発であり、各自の得意分野を活かし、利用者が自分らしく楽しい時を過ごせるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念I:4078900216					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく自分らしく」を理念として掲げ、その通りにいきいきと生活していただけることを一番の目標としている。理念は誰にでもわかるように玄関入ってすぐの所に掲示し、皆で共有している。	理念は職員全員の気持ちを表したものとなっている。理念を念頭に置いた支援に取り組むため、始業前に職員全員で唱和する時間を設けていたが、感染予防の観点から現在は見合わせている。理念を意識づけた支援となるように、職員それぞれが工夫し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より地域住民の皆様から気にかけていただき、この地域の一員として受け入れてもらっている。運営推進会議の際はもとより、地域の行事等にも参加させていただくことも多い。（今年度はコロナの影響により中止）	地域住民より季節の野菜やお菓子の差し入れ、おすそ分けがあり、日常的な交流が図られている。認知症カフェやキャラバンメイトなどの活動を通して、事業所に気軽に訪ねることができる開放的な環境となるよう努めている。	地域住民とは日常的に交流が図られており、運営推進会議への参加や災害対策での協力体制も整っている。コロナ禍が落ち着いたときに、地域の一員としての現在の関係性を継続し、より一層深められるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の知識については、認知症カフェやキャラバンメイトなどを通して、地域の皆様やご家族様に活かしていただくよう啓発活動などを行っている。ただし、今年度はコロナの影響により中止を行う事が多かった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、様々な事を話し合いサービスの向上に努めている。行政や地域住民の方々からご意見をいただくことも多く、事業所としてとても有意義に会議を行っていると思う。	柳川市職員、地域包括支援センター、区長、民生委員、地域住民代表者、家族、利用者が参加している。地域住民からは地域の情報やアドバイス等もらい、地域が作成した避難活動計画の一部として事業所も盛り込まれるなど、事業所の実情や課題についての意見交換が活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	お互いに協力し合い、連絡を取り合っている。開かれた事業所を目指すとともににより良いサービスが行えるようにしている。市町村との関係は良好であると感じる。	市が行うイベント活動にボランティアとして参加したり、認知症カフェの活動準備として講師に参加したりすることで、市の職員とも顔見知りとなり、お互いに相談しやすい関係性を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等の適正化の為の委員会」を利用し、全職員に身体拘束について正しく周知させている。また、可能な限り身体拘束は行わないように努めており、現在の所拘束を行ったような事例はない。	法人内に身体拘束等の適正化のための委員会を立ち上げ、2か月に1度、役員が内容を精査して現場にフィードバックを行っている。勉強会を年2回開催し、全ての職員が基本的な内容を理解し、さらに委員会からのフィードバックで知識を深めて、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、前項目通り、委員会や勉強会を利用し厳しく対処している。また、職員同士でも注意しあうように心がけており、虐待防止に向けて共通の意識を持てるようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度権利擁護についての勉強会を行い、職員間に周知させている。また、利用者様やそのご家族様から相談があった場合には適切に説明できる様用意している。玄関にはパンフレットなどを置き、自由に閲覧できるようにしている。	成年後見制度を活用している利用者のうち1名は、入居後から利用を開始しており、利用者の必要とする制度を把握し、実際の活用まで繋げることができている。勉強会を定期的に開催し、質問時には全ての職員が対応できるように分かりやすい資料なども準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約の内容については詳しく説明し、納得されたうえで入所していただくようにしている。多少時間はかかってもしっかりと説明するように心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、何でも話していただけるような信頼関係を築くことを目標にしている。ご家族様には、面会時などに声掛けし、ご意見などを聞くようにしている。また、言いにくい場合もあるかと思うので、意見箱を設置し、運営に反映させている。	利用者の要望は日々の生活の中での言動や表情から推察し、家族からも電話や手紙などでの連絡時に意向を尋ねている。意見や要望はひとつひとつ検討して、解決策を提案しており、実現が難しい場合にはその理由をしっかりと納得が得られるまで伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はいつでも聞けるような体制をとっている。また、2カ月に一回程度会議を開き、そこで全員で意見を言い合う機会を設けている。職員から出た意見は話し合い、吟味し反映させるようにしている。	ケース会議や職員会議など、職員が集まる機会を利用して意見を聞くようにしている。個別での対応が必要な場合には、別室で話しを聞くなどの配慮もしている。職員からの提案が表に出しやすい環境であり、運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状態等は把握するようにし、やる気のあるような職員にはスキルアップの機会を積極的に持てるよう努めている。また労働時間なども無理のないように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に関しては、性別・年齢などの理由はもちろんの事、宗教などのいかなる事情があろうとも採用対象からは排除しないようにしている。 又、働く職員に関しては自己実現が可能なように無理のない就業時間にし、いきいきと働けるような環境にしている。	30～70代が勤務しており、未経験、無資格でも適正があれば採用している。資格取得を希望している職員には勤務体制などで協力している。美容師の資格を持つ職員が在籍しており、利用者の髪を散髪してもらうなど得意分野が生かせる職場である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する事項については、日々機会あるごとに確認しており、又年に一回職員全体で内部研修を行い、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	法人全体で年1回、学習会を開催している。常に利用者はお客様であり、目上の方であり、かつ尊敬のできる親のような存在であることを頭に置き、利用者の人権を尊重するケアに取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成は重要事項であるので、研修やスキルアップの機会を確保するようにしている。またさまざまな資格が取れるよう配慮している。ただし、近年はコロナの影響で外部での研修は減少している。（リモート研修は行っている）		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流できる機会は出来ている。最近では、他法人施設と相互訪問と業務協力をし合えるようにしている。お互いが向上しあえれば良いと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本的には当ホームへの入所前に、本人様に面会を行い、本人様にお話を伺い、本人様の状態や要望などを聞くようにしている。入所後も事あるごとに話を聞けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ず不安、ご要望などを聞くようにし、可能な限りで希望に添えるように配慮している。また、家族の不安を取り除きつつ、本人様とご家族の思いに添えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の前に本人様とご家族様にしっかりと話を聞くようにしている。また、当事業所利用の前に利用されていた所があれば、そちらの職員などもからサマリーなどの情報を収集し、支援を見極めるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や洗濯の手伝い等をしていただいたり、調理の補助をしていただいたりする事もある。なかなかできにくい方でも、自分の目の前のテーブルを少し拭いてもらう等、ホームでの役割を持てただけのようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご本人様の情報を管理者や職員からご 家族に共有させていただき、共に支え あっていく関係を築けるよう努めている 。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の趣味のご友人等にも気兼ねなく 面会していただけるような事業所 であるべく努め、外出に関してもできる 限りの配慮をするようにしている。	感染対策として事業所内への訪問制限を実 施しているが、リモートや玄関先で2m程 の距離を空けるなどして、親しい人と顔を 合わせる機会を設けている。馴染みの場所 には時間帯に配慮し、人ごみを避けて外出 できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様の個々の性格を把握し、一人一人 が孤立しないように、かつ安心して暮らせ るよう環境を整えるようにしている。家族 様からや本人様の日常生活の様子などを情 報収集して支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも様子を確認している。また、 本人・ご家族様から相談があれば いつでも対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入所時に本人と家族から意向を聞き、 把握するようにしている。又、入所後 は本人の日常生活からのニーズを把握 し、快適な生活空間づくりに努めてい る。	思いを言葉にして伝えられる利用者とは、他の 利用者と離れたスペースに移動し、プライバ シーに配慮しながら意向を確認している。意思 疎通が困難な場合は、支援時の表情などから利 用者がどのように思っているか、把握するよう にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所前に別の介護施設や医療機関に入っ ていらしかった場合などは、そこからの情 報収集をしっかりと行うようにしている。 また、家族や知人などからの話を伺い、本 人の話などと照らし合わせている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	生活歴や今までの暮らし方を把握し、今後 当事業所での生活で何ができるか、また何 が必要かを考え、より良い暮らしになるよ うに努めている。特に心身の状態につい ては事細かに把握するよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員と本人・家族、職員その他の関係者で一丸となって、本人様のより良い生活の為に計画を作成している。また、実情が変化することに計画を見直すように努めている。	アセスメント表は様式が統一され、分かりやすいものとなるよう工夫されている。本人、家族、介護支援専門員、その他の関係者で意見を出し合って介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、現状に即した介護計画となっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを記録し、それを持ち寄り朝礼やケース会議等で情報を共有している。介護計画についても積極的に意見を出し合えるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望があれば、可能な範囲内で柔軟な支援を行うようにしている。既存のケアに囚われないようにしたい。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民の皆様や運営推進会議等での外部の方々からの情報により、社会性を断ち切らないように努力している。地域の行事などにも積極的に参加させていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在利用者様のほとんどが提携医をかかりつけとしていますが、基本的には本人やご家族の希望のかかりつけ医と連携することが出来ている。ちょっとした状態の変化時にも医療と連携がとれている。	利用者の多くは協力医療機関をかかりつけ医としている。専門科の受診時には職員が同行して、必要な医療を受けられるように支援している。医療機関との連携にも力を入れており、しっかりと情報共有が図られている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員が、全利用者様の状態を把握しており、変化のあった際にはすぐに医療に結び付けられるようにしている。また、個々の利用者様の希望での受診（眼科、耳鼻科など）も可能であり、各医療機関への情報の提供も行える。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報の提供を行い、退院まで、医療機関と連絡を取り合い、退院後の生活を支えるべく努力している。退院が長引かないように医療機関との話し合いなども行っており、関係づくりは出来ていると思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、入所時、その状態に陥る前、陥った場合の最低三回の話し合いを行い、方針を決めていくこととしている。ターミナルケアも行えることは全員に説明しており、当事業所での終末を望まれる場合が多い。	入居時、終末期に入る際など、必要に応じて話し合い、看取り介護を希望された際には説明を重ねて、確認書を取り交わしている。協力医療機関と事業所に在籍している看護職員が主体となって支援に取り組む体制が整っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応について話し合い、確認しあっている。また、緊急時対応マニュアルなども常時閲覧可能である。全職員が対応できるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練については半年に一回必ず行うようにしており、職員全員が緊急時に対応できるようにしている。またその際には地域住民の皆様にも協力をお願いしている。地域の防災マップなどにも当事業所を取り込んでいただき、地域との協力体制もしっかりできている。	実際に水害時に避難をしたことがあり、全ての職員が適切な避難方法を身に付ける大切さを経験を通して認識している。自然災害などの有事の際にも、介護サービスを継続させるための業務継続計画を作成中であり、万一のときに備えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者のプライバシーに配慮した声掛け、介助をするように努めている。又、定期的に職員間での声掛けの仕方の見直しなどを行い、お互いに注意しあう等行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援を実践している。職員は利用者とは自身の親のように敬意をもって接し、職員本位の支援とならないよう心掛けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態に合わせ、気軽に意思表示ができるような環境を目指している。職員も声をかけてもらえるような穏やかな雰囲気を作ると共に、生活を観察し、意思を推察できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には毎日利用者様に自由に過ごしてもらえよう配慮している。毎日決めている活動はあるもの、参加は自由に、また行いたい活動などがあればできる限り希望に添えるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月～1.5ヶ月に一度出張美容室を利用している。自分好みのカットの形にして頂くだけでなく、最近では、カラーやパーマなども本人が希望すれば可能にしている。また、服の買い物や外部での理美容等希望があれば沿うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の意見を取り入れながら食事のメニューを考えている。近隣の方から頂いた野菜や当事業所の畑で取れた物などの旬のものを積極的に取り入れ、無理のない程度で食事の準備後片付けなども手伝っていたいている。	テーブル拭きや食器洗い、おやつ作り、畑での収穫作業など、利用者の個々の力が発揮できる場を設けられるように努めている。食卓には職員も一緒に座り、話も弾み、楽しく家庭的な雰囲気である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	BMI値と栄養士の助言をもとに、一人一人の状態を把握しつつ食事のバランスを考えている。食事摂取量と水分量などは毎日しっかりと記録し、身体の状態も把握できている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。個々に応じて口腔ケアの指導等を行い、口内の状態を把握している。異常が見られた際には提携している歯科医や訪問医を依頼し、正常清潔な状態を保っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつの記録を行い、個々人の排せつパターンを把握するよう努めている。また医師にも相談し、排便のパターンを調整することもある。可能な範囲でオムツの使用を減らすように心がけており、自分でトイレに行き介助がいらなくなった方も複数ある。	利用者それぞれの排泄パターンを細かく記録し、タイミングを見ながらトイレ誘導をしており、実際に入居前に比べてオムツ使用量が減った利用者もいる。失敗時には羞恥心への配慮を欠かさず、利用者が安心できる声かけとなるよう心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつの記録をもとに食事の内容や水分量を調整したり、腹部のマッサージ、運動量の調整などを行っている。また、必要に応じ医療機関と連携し、緩下剤の使用などを検討する場合もある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	当事業所で入浴日は決まっているものがあるが、本人様の希望があれば添えるように配慮している。入浴拒否などがあるが、その場合なども本人様の様子を見て臨機応変に入れるようにしている。	利用者からの希望に柔軟に対応できる体制となっている。入浴を拒否する利用者がいた場合には、それぞれの個性に合わせた声かけやタイミングをずらすなどの工夫をしており、利用者が清潔な状態を保てるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全て利用者様の状況に応じて自由に休息していただけていると思う。夜間不眠の多い方は部屋の環境を整えたり、明かりの調整をしたりしている。また、必要に応じて医療機関と連携している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が全ての利用者の薬の内容を把握できるようにしている。また、副作用などについても周知し、新しい薬を服用する際には、通常よりもしっかりと様子を観察するようにしている。また、服用しやすい工夫なども行えている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が退屈なものとならない様、職員一同案を出し合って、楽しみや気分転換の支援をしている。一方では気乗りのしないような活動には無理に参加を進めるようなことをせず、その人なりの楽しみ方ができるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、行きたい所へ行けるように支援はしている。たまにご家族などにも協力をお願いする場合もある。ただし、昨年、今年度に関してはコロナ渦中であつたため、普段よりは外出の機会を減らしている。	天気の良い日には庭で日光浴をしたり、公園や近隣を散歩したりするなど、日常的に戸外の雰囲気を感じる機会がある。外出の希望があつたときには、感染の危険度が比較的低い場所に家族の協力を得ながら出かけられるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、ご家族の協力の元自分自身でお金を所持してもらっている。それ以外の方は、事業所がお金を預かり、本人の要望がある時に自由にお金を使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からのご希望にはほぼ答えられていると思う。積極的なやり取りができない利用者様にも、年賀状などの季節の手紙等を出していただき、繋がりが切れないようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずは、動きやすく分かりやすい空間であるように配慮し、季節が分かるように、季節の壁掲示や花などを飾るようにしている。また、危険性がなく落ち着けるような家具の配置をしている。温度設定も事ある事に確認し、快適な空間となるように努めている。	室内温度は外気温を確認しながら一定となるよう空調を調節している。2時間ごとに換気をして、空気の入替えも行っている。共有空間では、気の合う利用者同士が近くに座れるように工夫しており、楽しく家庭的な雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人が自由に過ごして頂けるようにソファやいすなどを配置している。現在、なじみの場所のようなものがあり、皆思い思いに快適に過ごしていっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力を得て、危険物以外は何でも置いていただけるように配慮している。居室で快適な時間を過ごして頂けるよう工夫している。	居室の壁には写真や好きな俳優のポスターが飾ってある。位牌や趣味の物なども持ちこまれており、その人らしい空間となっている。居室内は毎日清掃を行い、清潔で居心地よく過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、居室など分かりやすい掲示を行い、事業所内で混乱が起きないようにしている。もし、混乱が起きた際には、職員が即対応できるようにしている。		